



復刊第38号

第十四回日本女医学会総会を終えて

会長 三 神 美 和

風薫る五月、大阪中之島ロイヤルホテルで開かれた第十四回日本女医学会総会は誠に印象深いものであります。

出席された会員の皆様も定めし充ち足りた思いであられたと思います。これもひとえに地元大阪支部の方々が昨年来、あらゆる面に配慮され、ご準備下さいました賜物で、そのご熱意に對し心から感謝するものであります。

昨年広島に於ての総会で今年度総会を大阪にお願いすることを万場一致で可決しました時、果してお引受け下さるかどうかを危ぶんだ向きもありましたが、その後快よくお引受け下され、大阪の方々の協力一致の結果として遂にこのような立派な総会をお開き下さいましたことは感謝の外なく、重ねて厚くお礼申上げる次第であります。本総会は開会の挨拶で述べたように日本女医学会にとって今までにない重要な総会でありました。即ち本総会と同時に社団法人設立総会が行なわれたこ

とでありまして、予め用意された社団法人日本女医学会の定款も、予算、決算も皆様のご協力によって万場一致で可決されたことは、誠によろこばしいことでありました。昨年の総会で社団法人の件が議決され、それ以来一年間もろもろの苦心を重ねて、漸くここまで漕ぎつけることが出来ました。初めは海のものとも、山のものとも皆目見当がつかせんでしたが、目的に向って一歩も退かぬ熱意が実を結んだものと思えます。

吉岡弥生賞も皆様から喜んで頂いて本当によかったと思えます。病院ボランティア運動を推進された牧野先生、支部活動に、後輩女医の指導に、地域医療に貢献された森川先生、脳性小児麻痺児の療養、ならびに研究施設を建設され、この恵まれない乳幼児のために福音を与えられた龍先生他八名の方々、どなたを見ても本当に立派だと思えます。吉岡弥生先生のお名前を永遠に伝

えるべくもうけられたこの事業の第一回受賞者として誠にふさわしい方々だと思います。吉岡先生も地下できつと喜んでおられると思います。毎年次々と立派な受賞者がえられますよう希望してやみません。

あと三百日に迫った万博参加への準備は、物心ともにまだ十分とはいえないうらみがあります。会場の中から、手弁当、交通費自前で奉仕される意気をお示し下さったご発言がありましたが、このご熱意にはただ感激の外はありませんでした。今世紀の国家的大事業に奉仕しようとする日本女医学会の真心は必ずや全会員の共鳴を頂いたものと信じております。夜の懇親会での大阪府知事、大阪市長、万博事務総長のお祝辞は何れも万博への情熱を示すものであり、日本女医学会への感謝でありました。わが日本女医学会がいみじくもこの医療施設参加を決定した以上、どうしてもその責任を果さなければならぬと思えます。会員の皆様!! 何卒この上とも物心両面のご協力とご援助をお願い致します。

大阪の方々の懇親会並びに観光のご配慮はまことに至れり尽せりでありました。支那料理を囲んでの和気あいあいの楽しいムード、心をこめた会員の余興など私共の心をやわらげて下さいました。翌日の万博会場の見学は目を見張らせるものがありました。展望台から見た膨大な敷地、そこに組立てられつつあるシンボルゾーン、ソ連館、日本館などを目のあたりに見た時、

その偉大さに驚きと力強さを感じました。来年の今頃はこの中で私共が活躍しているのかと思うと「じつ」としてはられない追い立てられるような気持と重い責任を感じたのであります。

第十四回日本女医学会定時総会

常任理事 上 田 葉

昭和四十四年五月十日、来年度の万博の開催地大阪(ロイヤルホテル)で盛大に行なわれた。定時総会半ばで社団法人設立総会にきりかえ、議事は終始円滑に運ばれた。



左藤大阪府知事の祝辞にご満悦の三神会長

が討議された。総会議事と重複するの
で省略する。

総会議事録

会員総数 四千六十名
出席会員数 百九十名
委任状による出席 千五百五十九名
司 会 中西 清 子
以上によりこの総会が成立する旨を
宣す。

一、開会の辞(副会長)川那部喜美子
多数の会員が出席され、開催地大阪
支部として本当に喜ばしい。重要な議
事が多いので十分審議され、また總會
の円滑な運営に協力してほしい旨を述
べられた。

二、会長挨拶(会長) 三神 美和
まず大阪支部の会員への感謝を述べ
られ、この総会には同時に社団法人設
立総会も開催するので種々審議する事
項も多いのでよろしくご協力願いた
い。社団法人設立に對し山崎倫子理事
のご努力に感謝、厚生省を認可にふみ
切られたのは本会の戦前からの偉大な
社会的業績と会員の地域社会への貢

評議員会

通知発送 百二十三名
出席者 五十三名
有効委任状 四十五名
議長に三神会長が推され、重要議事

献、特に僻地診療などの実績、また国際女医学会への参加など、国際交流の業績などによるところが大きい。それに武見日本医師会々長のおことばも大きい由。しかし厚生省は万博に対する日本女医学会の事業には不安を持っているので十分協力してほしい。その万博の資金も徐々にふえてきているが目標額には今一息の努力が必要なのでよろしく協力願いたい旨の挨拶があった。

三、吉岡弥生賞授賞式
今回は社会に貢献したものに相当する左記の方々が受賞された。学術部門に貢献した方の論文の提出はあったが審議委員の決定がおくれたため次回に審査することとした。

(一) 森川みどり 受賞の対照になったのは「女医の地位向上、後輩の育成、愛知県支部無料健康相談等の実績」に対して。

(二) 牧野夫佐子 受賞の対照になったのは「病院ボランティア運動を率先して推進させたこと」に対して。

(三) 龍 知恵子他八名 受賞の対照になったのは「幼少脳性マヒ児療育病院および研究所を建設したこと」に対して。

これに対します吉岡弥生賞の基金を寄付された荒川あや氏より自分のやりたい事をこの受賞された方々がやって下さって本当にありがたい。そしてこの賞を提案された龍 知恵子氏に感謝するとの挨拶があり、ひき続き○森川みどり氏 名譽ある受賞は愛知

県前支部長ならびに会員の援助によるものである。

○牧野夫佐子氏 千人以上のボランティアも喜ぶ事でしょう。全国の病院に派遣したい。

○龍 知恵子氏 自分にかわってその施設東京小児療育病院々々長藤永数江氏より挨拶願いたいと発言され、藤永氏より療育病院の現況、障害児に対する一般への知識の普及に努力、賞は施設の費用に加えない。

三、議長選出
会長一任を全員賛成、会長 牧野夫佐子氏を議長に選出
議長 牧野夫佐子氏議長席につく。

四、議事録署名人
議長一任、議長より町静子、上田葉両氏を選出し議事を進行す。

五、昭和四十三年度庶務報告
久保田くら

本会々員数	四千六十名
四十三年度入会員数	九十一名
会員住所変更数	百三十五名
四十三年度会議	
常任理事会	六回
理事會	七回
定時總會	一回
臨時評議員會	一回
臨時評議員會	一回
万博委員会	二回

吉岡弥生賞 三回
主なる議題

○万博施設参加の件
○PPA (汎太平洋東南アジア婦人会議) 代表者の件

○NGO加盟の件
○社団法人申請の件
○事業計画細目に関する件
吉岡弥生賞審査委員決定
助成事業費実施方法

○吉岡弥生賞の件 (弥生賞規程案推薦委員)
○国際会議の件
昭和四十五年二月十四日(二十日)於 オーストラリア

健康
議題 "産業にたずさわる婦人の健康"
国際会議庶務報告
○第十一回国際女医学会々議 (於 ウィーン) 四三、六、二四(二九)

テーマ "飢える百万人"
小野春生理事 講演 "日本における小児の栄養と発育"
山崎倫子理事 講演 "宗教的、心理的及び教育上の見地からみた人口過剰とその抑制に対する問題"

国際女医学会々議参加者結団式 (於 ホテルオータニ) 四三、六、一九
国際女医学会々議参加者一行四十一名出発... 四三、六、二〇
○第十一回PPA (汎太平洋東南アジア婦人会議) 会議 (於 ハワイ) 四三、八、十二(二三)

テーマ "世界の人口増によっておこる諸問題"
山崎理事代表者として出席、講演を行なう。

○小野春生理事国際女医学会副会長に就任 (四三、六)
○山崎理事PPA次回プログラム委員ならびにPPA書記に就任 (四三、八)

○国連NGO国内婦人委員会に加盟 (四三、九)
○四十三年十一月二十三日 "旅の思い出" 南国酒家においておこなわれる。当日、元国際女医学会々長デルムンド女史来日、席上に招待

○佐野アヤ子理事国際連絡書記に就任
○小野春生理事マニラ女医学会総会に出席 (四四、三、十六)

その他
○十勝沖地震見舞金
○事務員 石橋親子採用 (四三、八)
六、国際女医学会報告 小野 春生 庶務報告中の第十一回国際女医学会の詳細を追加され世界の全人口は三十五億で毎年六千万人増加、現在でも飢餓で死亡するものが多いのに西暦二千年には四十億となる。その他インドの食糧事情などが報告された。四十四年二月にオーストラリアのメルボルンで国際女医学会が開催されるから参加希望者は五月二十日迄申し込まれたい。

これより議題に入る。
七、議題
第一号議案 昭和四十三年度決算報告承認を求むる件 大内 広子

第十二回国際女医学会
参加募集のお知らせ

五月二十五日第一回渡航打ち合せ会を用い、二週間コースにて説明を致しましたところ、ご参加者のご希望により帰路東南アジアを回る三週間コースをも企画致し追加申込みを募集することになりました。

○(Aコース) (三九八・〇〇〇)
二月十二日出発、東京、シドニー、メルボルン、クライストチャーチ、マウントクック、ウェリントン、ロトルア、オークランド、ホンコン、帰国二月二十六日(十五日間)

○(Bコース)
三週間コース(五一七・〇〇〇)
出発よりオークランドまで二週間コースと同一行動。

オークランドよりジャカルタ、シンガポール、バンコック、プノンペン、シエムリープ(アンコールワット)ホンコン、東京
帰国三月五日(二十二日間)

○両コース共、学会期間中の滞在費は別になっております。

○申し込み 申込金五万円をそえ
日本女医学会本部へ
締切日は、六月末日まで
(開催事務局への連絡及び旅行手配の都合上)

昭和43年度収支決算書

(自昭和43年4月1日
至昭和44年3月31日)

収入の部

科目	決算額	予算額	比較増減	摘要
会費収入	3,704,500	4,400,000	△ 695,500	会費納入率 41%
寄付収入	1,979,725	2,600,000	△ 620,275	年金 1,143,092 日本海外旅行 300,000 国際会議 40,000 青森県支部 10,000 日本航空 150,000 日浅氏 10,000 第11 回国際会議 155,136 汎太平洋東南アジア婦人会議 171,497
財産収入	571,407	300,000	271,407	有価証券 279,520 預金利子 41,949 雑収入 244,938
繰越金	7,573,338	7,573,338	0	社団法人設立準備金
合計	13,828,970	14,873,338	△1,044,368	

支出の部

科目	決算額	予算額	比較増減	摘要
事業費	1,619,353	3,660,000	2,040,647	
奨学事業費	0	1,700,000	1,700,000	
助成事業費	400,000	1,210,000	810,000	無医村地区診療(小川リツ 100,000, 松井寿美子 100,000, 女子医大へき地巡回 200,000)
協力事業費	1,219,353	750,000	△ 469,353	第11回国際会議, 汎太平洋婦人会議, 日本女医会総会(広島)補助 70,000+勝沖地震見舞金 118,800
事務費	2,508,977	3,640,000	1,131,023	
俸給諸給	924,800	1,560,000	635,200	
諸手当	72,456	200,000	127,544	
什器備品費	47,350	73,000	25,650	
名簿費	200,000	200,000	0	名簿発行費繰入
事務所費	160,000	240,000	80,000	一部事業所建設費繰入
光熱費	22,000	22,000	0	
通信費	322,762	200,000	△ 122,762	
印刷費	163,840	200,000	36,160	
旅費交通費	129,130	200,000	70,870	
消耗品費	24,581	15,000	△ 9,581	
会議費	35,580	100,000	64,420	
慶弔費	31,375	100,000	68,625	新卒新入会員への祝品, 会員香典
国際女医会費	260,000	180,000	△ 80,000	1人年額6シリング~1,000名分
予備費	77,675	300,000	222,325	
雑費	37,428	50,000	12,572	
社団法人設立準備金	7,573,338	7,573,338	0	
計	11,701,668	14,873,338	3,171,670	
剰余金	2,127,338			

財産目録

昭和44年3月31日現在

資産の部		負債の部	
現金	114,308	名簿引当金	200,000
普通預金(富士 2~14,615)	1,698,728	事務所引当金	160,000
”(安田)	17,620	基本財産	7,771,338
振替預金	672,870	翌期繰越金	2,127,302
安田信託(1)	8,822		
安田信託(2)	1,143,092		
立替金	42,055 (吉岡弥生賞 審査会経費)		
事務所引当金	1,744,000		
故佐藤会長寄付金	1,490,720		
名簿引当金	200,000		
会費前納金	2,989,000		
什器備品	64,425		
電話加入権	73,000		
計	10,258,640	計	10,258,640

昭和四十三年年度決算報告書・昭和四十三年資産は前表の通り。
四十三年度収支決算書通り承認。
四十三年度財産目録通り承認。
監事鈴木文子氏より会計士との立合の上決算報告に相違ない事を証明しますとの承認報告があった。

ここで三神会長より緊急動議がありこれから後の議事を社団法人日本女医会設立總會とした。(全員賛成)

第二号議案 社団法人日本女医会設立の件 山崎 倫子
昭和四十三年二月十一日の日本女医会臨時總會で本会を社団法人にしたいという事が決議されその後たびたび厚生省とも話し合い昭和四十四年四月十七日厚生省医務局総務課で認可することに内定した(まだ厚生大臣の許可まではいかない)。この定款(案)も厚生省の意見を聞き一字一句定めた。しかしまだ若干字句の変更はあるかもしれない。登録されてはつきり決定するものである。『社団法人日本女医会定款(案)』の説明あり。

以上に対し二、三の質問あり。
入会金の件
①長池氏(宮城) 入会金をとらない理由
山崎氏 会費すら未納が多いのでそれまで考えていない。
長池氏 入会金を出しても入りたいという魅力ある会にしてほしい。
②富永氏(広島) 推薦者がある場合入会を否定することがあるか?
会長 今迄はない。

③森川氏(愛知) 会費の所に会費の免除を加えてほしい。

山崎氏 社団設立後も引き続き名譽会員は免除する。これは細則で定めた。
以上第二号議案全員承認

第三号議案 昭和四十四年度事業計画案審議の件 小俣喜久子

事業費 四、二六〇、〇〇〇円
奨学事業費 一、二〇〇、〇〇〇円
一、吉岡弥生賞 一、〇〇〇、〇〇〇円

審査委員 三神美和、荒川あや、川那部喜美子、川野辺 静、小俣喜久子、中川 富士、中西清子、橋本 恵美子、森 千鶴、龍 知恵子
推薦委員 理事、各県支部長
審議委員
(基礎部門)
解剖(久保田くら)
生理(橋本葉子、内藤博江)
生化学(降矢 燮)
薬理(野本照子)
病理(今井三喜、中島利子)
衛生(石井妙子)
法 医(吉成京子、河野 林)
細菌(中西清子、藪内英子)
微生物(五島瑠智子)
(臨床部門)
内科(三神美和、鮫島美子、小俣喜久子)
外科(太田八重子)
麻酔科(岩淵 汲、沢田洋子、

豊吉光子)

小児科(笠井 和、野呂幸枝)
整形(浅田美江)
産婦人科(大内広子)
眼科(山中妙子、齋藤紀美子)
大岡良子)

耳鼻科(相原静江、木谷慶子、大下富美代)
皮膚科(大原一枝、青木良枝)
神 經(柴田洋子)
放射線科(重田帝子、笹マツ子、上利則子)
泌尿器科(梅津隆子、城戸摩利子)

本年度授賞者下記の通り決定す。
a 社会に貢献した人
(イ) 森川みどり……『女医の地位向上、後輩の育成、愛知県支部無料健康相談』等の実績に対して。
(ロ) 牧野夫佐子……病院ボランティア運動の推進者として。
(ハ) 龍知恵子他……幼少脳性マヒ児療育施設および研究に對して。
龍 知恵子、藤永 数江、宮坂登志子、中川 富士、森 寿恵、小俣喜久子、真鍋 昌子、山田都美子、犬飼美代子

b 學術部門に貢献した人
四十四年度において、二名の推薦候補者があった。しかし學術部門の審議委員組織ができておらず、審査することができなかった。十二月末日までに推薦候補者を届け、審議委員は翌年二月までに審査会へ資料ならびに推薦者を提出し、審査会は三月末までに授賞者を決定する。
一、奨学金 二〇〇、〇〇〇円
二、助成事業費 一、四〇〇、〇〇〇円
一、へき地診療への助成 六〇〇、〇〇〇円
二、公衆衛生(社会福祉) 五〇〇、〇〇〇円
三、支部助成 三〇〇、〇〇〇円
〇協力事業費 一、六六〇、〇〇〇円
一、講演研修会 二〇〇、〇〇〇円
二、国際交流 八六〇、〇〇〇円
一九七〇年度国際会費分 二六〇、〇〇〇円
(一人六シリングー、〇〇〇人分)
第十二回国際女医会總會(四十五、二、十四(二)、二十)前後に国際女医会加盟国三十二カ国より大勢の会員が来日の予定。
国際交流、親善のための渉外費他として六〇〇、〇〇〇円計上す。
三、機関紙の発行 六〇〇、〇〇〇円
以上提案通り異議なし承認

第四号議案 昭和四十四年度収支予算案審議の件 大内 広子
次表参照
以上予算書につき大内理事より若干の追加説明あり、諸手当は万博のために事務が繁雑するので増額したこと、慶弔費の値上げ理由などの説明あり、年金の予定は千円、現在は四六八口であるので協力してほしい。まだ加入していない方には次のような方法(貸付信託へ五十万円預託すると六カ月に一万八千七百七十五円利息が出るのでそれを普通預金に入金して毎月三千円(一口加入)を女医会に自動引落とする)の説明があった。

第五号議案 昭和四十五年度事業計画案 松岡 宏子
事業費総額 一、二〇〇、〇〇〇円
一、奨学事業費 一、二〇〇、〇〇〇円
(1) 吉岡弥生賞 一、〇〇〇、〇〇〇円
社会に貢献した人……前年度と同様該当者に対し授与する。
學術部門に貢献した人……四十五年より授与する。
奨学金 二〇〇、〇〇〇円
優秀な医学生(推薦委員より推薦された)に対し授与する。
二、助成事業費 一、二〇〇、〇〇〇円
(1) へき地診療への助成 五〇〇、〇〇〇円
(2) 公衆衛生 三〇〇、〇〇〇円
純潔教育普及活動への助成

純潔教育普及活動への助成

純潔教育普及活動への助成

純潔教育普及活動への助成

昭和44年度事業計画収支予算書

収入の部

支出の部

科		44年度 予算額
款	項	目
1.	会費	4,600,000
	1. 会費	4,600,000
	①正会員	
	②特別会員	
2.	寄付金	1,500,000
	1. 一般寄付金	500,000
	2. 指定寄付金	1,000,000
3.	事業収入	1,500,000
	1. 年金	1,500,000
4.	雑収入	120,000
	1. 名簿送料	50,000
	2. 銀行利息	40,000
	3. 校債利息	20,000
	4. 広告料	10,000
	5. その他	
5.	繰入金	2,127,302
収入合計		9,847,302

科		44年度 予算額
款	項	目
1.	事業費	4,260,000
	1. 奨学事業費	1,200,000
	①吉岡弥生賞	1,000,000
	②奨学金	200,000
	2. 助成事業費	1,400,000
	①(へき)の療養(成)	600,000
	②(へき)の(社)福(成)	500,000
	③(へき)の(支)助(成)	300,000
	3. 協力事業費	1,660,000
	①講演研修会	200,000
	②国際交流紙	860,000
	③機関紙	600,000
2.	事務費	4,587,302
	①俸給諸給	1,440,000
	②諸手当	760,000
	③什器備品費	50,000
	④名簿費	200,000
	⑤事務所賃借料	120,000
	⑥事務所引当金	240,000
	⑦光熱費	36,000
	⑧通信費	300,000
	⑨印刷費	250,000
	⑩消耗品費	50,000
	⑪慶弔費	150,000
	⑫会議費	200,000
	⑬旅費交通費	280,000
	⑭減価償却費	20,000
	⑮予備費	440,000
	⑯雑費	51,302
3.	社団法人設立準備金	1,000,000
支出合計		9,847,302

(3) 支部助成 四〇〇、〇〇〇円
愛知県、宮城県支部での無料健
康相談ならびに純潔教育実施
等へ補助金を支給する。
なお、へき地診療の支部活動を
奨励し、助成金を支給する。

三、協力事業費
九、八〇〇、〇〇〇円

(1) 講演研究会
二〇〇、〇〇〇円

(2) 学術部門受賞者の研究発表をは
じめ、医学講演会を行なう予
定。
国際交流 五〇〇、〇〇〇円
機関紙の発行 六〇〇、〇〇〇円

(4) 万博事業費
八、五〇〇、〇〇〇円

(中間経過報告)
第五号議案全員承認

第六号議案 昭和四十五年度事業計画
収支予算書(案) 大内 広子
次頁表参照
第六号議案全員承認
ここで再び三神会長より緊急動議あ
り、名誉会員推薦の件
龍知恵子前会長を名誉会員に推薦、
全員賛成、つづいて龍知恵子氏より、
先程は吉岡弥生賞をいただき名誉会員
にも推薦されこれからも全力を会の方

(収入の部)
本会会員の寄付(一口五〇〇円)ル
ーベンダンの販売、白衣、万博グラ
フ、火災保険、自動車保険等で資金
をつくっている。
四十四年四月三〇日現在調べ
寄付金 一、八一、一〇〇円
ルーベンダン 一、〇五二、六六〇円
白衣 三六九、九四〇円

めにつくすとの感
謝のことばがあつ
た。
第七号議案 万国
博医療施設参
加の件
(事業中間報告)
①庶務的事項
久保田くら
医療サービスの
人員動員について
各県支部別参加申
込み調査表、月別
参加申込み調査表
(次頁表参照)
以上の通りであ
るがまだまだ少な
い月もあり、又支
部単位、クラス単
位で団体参加の希
望もあるので万博
委員会検討す
る。
②会計報告
福田 貞

万博グラフ 一八〇、九〇五円
火災保険他 五〇〇、〇〇〇円
計 三、九一四、六〇五円
目標額一〇、〇〇〇、〇〇〇円達成
のため薬品メーカー、医療機械メーカ
ーより寄付の申出があったので大口寄
付を依頼することに四月一九日理事會
で賛成決議された。

(支出の部)
看護協会 一、〇〇〇、〇〇〇円
(一日七人づつ一八三日間奉仕
活動に参加)
女医会 七、五〇〇、〇〇〇円
(f)食事代 一、二八一、〇〇〇円
(一日一、〇〇〇円×二八一)
(h)交通費 三、三六九、〇〇〇円
近距離 一、〇〇〇円×三〇〇人
= 300,000円
中距離 三、〇〇〇円×100人
= 300,000円
遠距離 四、〇〇〇円×50人
= 200,000円
= 800,000円
(i)宿泊費 一、四〇〇、〇〇〇円
(二、〇〇〇円×七〇〇人)
(j)諸経費 一、四五〇、〇〇〇円
広告社支払 二〇〇、〇〇〇円
万博までの諸経費 二五〇、〇〇〇円
万博施設参加期間中
大 阪 五〇〇、〇〇〇円
(人件費、通信、諸経費)
東京本部 五〇〇、〇〇〇円
(人件費、通信、諸経費)
③現地の実状について 東条 一子
昭和四十四年二月十一日参加決定よ

各県支部別参加申込み調査表

昭和45年度事業計画収支予算書(案)

支部	人数	延人数	支部	人数	延人数
千代田	2	13	愛知	12	79
中央	1	6	長野	2	25
港	1	2	岐阜	3	6
新宿	1	10	新潟	1	2
内京			富山		
文台			石川		
品川			福井	2	4
目黒	1	7	大阪	1	
大田	4	58	"	2	
世田谷	5	19	"	3	
渋谷	1	3	"	4	
中野			"	5	
杉並	18	48	"	6	33
豊島	1	1	"	7	359
板橋			"	8	
練馬			"	9	
北			"	10	
足立	1	7	京都	4	32
墨田	1	1	滋賀	1	6
荒川			三重	2	5
江東	3	6	奈良	5	37
葛飾	1	3	和歌山	9	54
江戸			兵庫		
都下	7	33	岡山	4	18
北海道			広島		
青森	1	3	鳥取	1	3
岩手			山口		
宮城	1	4	香川	1	5
秋田			愛媛	4	9
福島			高知		
群馬	2	17	福岡		
埼玉	1	3	佐賀		
茨城	1	3	長崎	1	5
千葉	1	9	熊本		
神奈川	6	45	大分		
山梨			宮崎	1	6
静岡	2	10	鹿児島		
			計		965

収入の部		支出の部	
科目	45年度予算額	科目	45年度予算額
1. 会費	4,750,000	1. 事業費	12,200,000
1. 会員会費	4,750,000	1. 奨学事業費	1,200,000
①正会員		①吉岡弥生賞	1,000,000
②特別会員		②奨学金	200,000
2. 寄付金	1,600,000	2. 助成事業費	1,200,000
1. 一般寄付金	600,000	①(会)の助成	500,000
2. 指定寄付金	1,000,000	②(公衛)の助成	300,000
3. 事業収入	10,000,000	③支部助成	400,000
1. 年金	1,500,000	3. 協力事業費	9,800,000
2. 万博事業費	8,500,000	①講演研修会	200,000
4. 雑収入	150,000	②国際交流	500,000
1. 名簿送料	50,000	③機関紙力費	600,000
2. 銀行利息	50,000	④万博協業	8,500,000
3. 校債利息		2. 事務費	4,300,000
4. 広告料	50,000	①俸給諸給	1,440,000
5. その他		②諸手当	760,000
5. 繰入金		③什器備品費	50,000
		④名簿費	200,000
		⑤事務所賃借料	120,000
		⑥事務所引当金	240,000
		⑦光熱費	36,000
		⑧通信費	300,000
		⑨印刷費	250,000
		⑩消耗品費	30,000
		⑪慶弔費	150,000
		⑫会議費	150,000
		⑬旅費交通費	200,000
		⑭減価償却費	20,000
		⑮予備費	304,000
		⑯雑費	50,000
収入合計	16,500,000	支出合計	16,500,000

月別参加申込み調査表

(昭和44年4月30日調べ)

月別	必要人員	参加申込延人数	月別	必要人員	参加申込延人数
3月	102	68	7月	186	91.5
4月	180	98	8月	186	90
5月	186	131	9月	78	94
6月	180	126.5	その他		266
* その他……全開期参加する会員。 参加するが期日不明の会員			計	1,098	965

り今日迄の経過報告。大阪に於ける万博委員会の状況の説明あり。

これらに対し、花岡(千葉県)、佐藤(愛知県)より医療奉仕参加に対し交通費の支給について質問あり。

希望者は、旅費、宿泊などすべてボ

ランティアということで役務提供してはどうか、また希望者はそのように解積しているがその点どのように考えておられるか。

会 長 二 流のホテルでなく他に便宜を計れば多少経費の節約もできるし他からの寄付も考えている。今迄申込みされた方々はボランティアのみ考えてくれている好意のある方と思うが自分達も努力して費用を作り、又寄付も考えて事業費は作るつもりである。大口寄付もすでに数件決定している。

第八号議案 次期総会開催地の件、

その他 三神 美和

定期総会 四、五月に決算報告ならび
予算の審議決定を行なう。

臨時総会 十一月頃万博の総決算、役

員選挙を行なう予定である。

開催地 東京にしたい。

理事は同窓会単位で十名づつ選んで
ほしい。

午後五時閉会。

社会に貢献したものとして

牧野夫佐子推薦のことば

吉岡弥生賞推薦委員 大原 一枝

牧野夫佐子の病院奉仕を主目的とするボランティア運動は開始以来七年目を迎えた。無私のヒューマニズムに基いて複雑な医療の仕事に一般に正しく認識させ、婦人の視野を広める一方、病院の手足不足な看護婦を補助し、ボランティアの働くところ、看護婦をしてその本来の使命に目覚めさせ、その労働意欲をたかめて、病院、患者、看護婦から喜ばれている。

昭和三十七年、一開業医として彼女が推進したこの運動は、発祥の地大阪

から日本各地に広がり、昭和四十三年八月現在、奉仕活動を持続的に行なっている病院数は十四、登録人員数は一、〇二九名に及んでおり、ささやかながら絶えざる前進をつづけており、社会的にも極めて高く評価されているのみならず、国際親善の役目をも果たしている。

ここに本人の手記ならびに、新聞記事、参考書類を添えて吉岡弥生賞、社会に貢献したものの候補者として推薦する。

病院奉仕ボランティア活動について

牧野 夫 佐 子



昭和三十四年十月、アメリカ、マサチューセッツ州、マウント・アーバン病院での家庭婦人によるボランティア活動を見学して、その後、トレッド市立病院（オハイオ州）等でも「ピンク・レディ」と呼ばれて、白髪の婦人から

高校生まで、それぞれの余暇をささげて奉仕している姿に大いに感動し、帰国後は日本にもこんなグループを持ちたいと思った。

その理由

1、当時既に看護婦の不足を告げていた医療界に、必ずしも資格を持たぬ婦人が出来る範囲で手助けをし、その円滑な運営を来し、同時に「看護」という仕事の認識をもたせ、看護婦の地位向上の為に一般婦人の理解を深めたい。

2、日本人殊に日本婦人は、優れた素質と熱意を持ちながら、家庭にとちこめられていた為に、社会連帯感が少なく、社会性に欠け、子女の教育にも相互扶助の観念を植えつけることに欠け、これが日本の後進性をなおふり捨てられぬところと思ひ、「うちの子は勿論うちの子」、であるが、「よその子もうちの子」という考え方を養うためにも病院での奉仕、殊に一定の日時に責任を持って団体活動の訓練をすることが必要と考へた。

3、筆者自身、病院勤務、大学助手（文部教官）開業医、同時に家庭をもつての生活で、病院、総婦長級の看護婦、奉仕希望の若い女性、地域婦人会の人達を結びつける役割が果せる、と考へた。

以上の考えから、昭和三十五年位から病院や友人、講演に行く婦人学級、母親学級、PTA等でこの運動を起すことをすすめたが、「そんなことは鍵一つで外出出来、自家用車で走れる

アメリカ人だから出来るので、日本ではまだ無理だ」と受け入れられずに日が過ぎた。「レジャー・ブームに奉仕をすすめる」意味を、新聞に発表したのもこの頃であった。（読売新聞「かいてん窓」）

昭和三十七年十一月に至り、行きつけの美容院の住込の若い美容師二名が、施設の子供達にパーマメント・ウエーブをかけて奉仕したいと、斡旋を頼んで来た。

丁度淀川キリスト教病院社会事業部主任のジュン・ラム女史（SWICで共に会員でもあった）が、同院の長期入院患者のため、この美容の奉仕を受け入れて下さるようになり、ハンド・ドライヤーをさげて、シャンプー、セットに出かけたのがボランティア第一号であった。

同時に、中央材料室でのガーゼたたみ、綿棒づくりなどに筆者自身、及び尼崎市の小学校家庭学級の母親（カトリック教員）の二名が出かけた。昭和三十七年十一月のことであった。

その冬休みより学生、ガール・スカウトが出かけ、同院に一時チヨーカー米総領事夫人達でつくられていたグループのあと継ぎを作った。日本人ばかりのグループは私共が最初であった。

同院はアメリカの南部諸州の長老派教会の婦人部の寄付によるもので、受け入れ病院としては偶然最良のところであった。

翌年、半紙一枚の月報もガリ版ながら印刷し、同時に付①のようなものを、

至る所に配布して周知につとめた。

昭和三十九年、大阪アメリカ文化センターより、時の米総領事夫人ステイグマイヤーさん達が大阪の婦人と共に何か事業をしたい、と申し出て居られるから、と要請があり筆者は、この淀川キリスト教病院のボランティアグループに参加して貰えば、親善にも言葉の勉強にもなると訴えたが、「もうグループのある所へは行きたくない。新たに開拓してこい。」とのことで、筆者

は赤十字病院を第二の病院と考へ、赤十字大阪病院へ出かけ総婦長（ナイチンゲール・メダル受領者）長島久子女史と話しあい、ステグマイヤー夫人達を迎え共に奉仕活動をする予定となった。この間に病院の上司や社会事業部との交渉など、長島女史の協力は忘れ

ることが出来ぬ。同年九月、ステグマイヤー夫人達は夏休みで避暑に行つてしまわれたが、日赤のボランティアグループは私共だけで中央材料室から始まった。然し後に、「愛の移動図書館」を始めようとした時このことを言つて、ステグマイヤー夫人達、米國大使館婦人達、アメリカ文化センター館長夫人エリオットさん方から多額の寄付を貰ったのは有難かった。書籍の消毒器が買えたからである。

第三の厚生年金病院は一時中断したが、少数ながらもつづけている。

第四の北野病院は、地域婦人団体のみで行なう仕組であるが、のびにくい。

第五、国立大阪病院は大阪ガールスカウトや、はじめの美容師のみで、こ

こしばらく中断している。

第六、兵庫県立西宮病院は、岡田一郎医博の紹介で三浦院長に面会、院長は欧米視察後リハビリテーション時の患者の友人になるボランティアがほしい、との意見を持って居られ順調に組織がつくられた。土地柄外人の入院が多く、通訳のボランティアが即座に出るのもこの特徴である。

第七、国立大阪南病院。地域婦人会を中心としているが、目下低調である。

第八、横浜赤十字病院。院長夫人がこのグループを持ちたいとのこと、筆者の友人奈良林祥医博夫人などが始め、現在は日赤奉仕団が五百五十名で参加、はじめの純ボランティアと二本立てで進んでいる。区長、民生部長等も視察した由である。

第九、昭和四十二年には六カ所が増えた。関西医大は母校であるし、早くから希望していた。

第十、東京日赤本部産院内乳児院。僅か一、二名であるが、いづれ大きな所である。日赤奉仕団がパート・タイマーで入っている由で、ボランティア活動がのびにくいのもかもしれない。

第十一、市立芦屋病院。レントゲン科の受付に行く。中材にも求められている。

第十二、大阪市立小児保健センター。珍らしく、先方より希望されたところ。梅花女子短大生なども入って、お遊びの相手が仕事。

第十三、大阪赤十字付属大手前整肢学園。極度に手不足のため、病院開設と同時にボランティアが入った。殊に「あゆみ会」大阪赤十字高等看護学院生徒諸氏が活躍中。

この人達が卒業就職後、各地でこの活動をはじめてくれるだろう。肢体不自由児の入浴の脱衣なども行なっている。この経験から重症障害児施設への奉仕の糸口もみつけれられるだろう。

第十四、京都第一赤十字病院。主として中材。女子高校生が教師と共に奉仕。

第十五、日本バプテスト病院。京都YWCA、同志社大女子学生等。

第十六、兵庫県がんセンター。食事時の配膳、引膳等。ここは相談室の医療社会事業家吉岡菊英氏の尽力による。

付②のような月報を五百部印刷、配布している。

その他、淀川キリスト教病院、大阪赤十字病院ボランティアグループは、独自の月報を出している。付③④。

又、大阪赤十字内血液センターでは献血者の検診を行なう医師の不足に悩んでいるので、昭和四十二年には筆者の同窓木村克子医博が、採血バスにのりこみ週一回の奉仕を行なったことがある。残念なことにはこれに続く医師がまだ現れない。

このボランティア運動に参加した総数は目下千名余、続々と増加する傾向にある。その経済的基盤は、関西国連婦人会員、その他主として個人の寄付で、淀川キリスト教病院は独自に「だしの素」を販売してその純益で事業を行ない、大阪赤十字病院は、ボランティアの夫君達が後援会を組織して応援している。

又、マスコミの協力もあり、発足当初より読売、毎日、サンケイ、朝日等、

大阪にて開催の

第十四回日本女医学会総会について

副会長 川那部 喜美子

今回の大阪総会に全国から多数の会員をお迎え出来まして地元会員といたしましてまことにありがたく嬉しく存じました。

三神会長ご主宰の下に総会の全スケジュールが進行し当節はやりのハプニングもなく和気あいあいの雰囲気をもって盛会裡に幕を閉じられましたことはご同慶の至りでございました。

顧みますれば大阪総会は第二回目でございます。最初の会は一九六〇年秋今は故人となられた佐藤会長や当地の福井繁子博士がかくしやくとしてご健在の折で日本女医学会が国際女医学会に正式の代表団を初参加させた際で華かな婦朝報告が行なわれなかなかの盛会でございます。

それから九年の歳月を経過し日本女医学会の実績は国際的にも又国内にもいよいよ上がりこの度の大阪総会が開か

付の新聞、又はテレビ、ラジオ等で紹介されている。英文毎日を見たから、と在日米婦人が参加している所もある。又、「婦人之友」誌では昭和四十二年十二月号に、「あなたもボランティアに」と題して報告された。

関しては全国民及び多数の外国人が注目する事でありましょう。したがって本会が自ら掲げた役務参加の立看板にふさわしく、会員各自が救護第一線の医療の責任を充分果さねばならない。しっかりやり通さねばならない！これは今回の総会参加者全員がひしひしと感じられた感想であったと存じます。

この拙文をご覧になりました全国の会員の皆様！ 私達のスローガン「万博と女医」の問題を立派に成功させるために力を合せようではありませんか。「なせばなる」のあの実感を重ねてまた自分達のものにしたそうではございませんか。

至急アンケートを
いただきたい！

常任理事

久保田 くら

本誌の三神会長の巻頭言にもございますように、日本女医学会が万博に医療提供を致すことは、会員の賛同を得て決定されて事でありませぬ。これを成就するために最も大切と思われませぬのは「会期中医療を実施されるその場」、実施する会員の諸先生が、確実において下さることであると存じます。

アンケートにもつづいての結果として、現在の処では、必要日数および必要延人員などの約二分の一に漸く達したにすぎませぬ。したがって、この儘

の状態では、せっかくの決定も実施にいたらなくなるおそれがございます。右の事とを賢察の上、アンケートに対するご返信を早急にいたされたくお願いいたします。期日がせまらねば予定がたぬとの向もありましようが、凡その日数、期日、ご希望等をお報せいただく事により、ご協力のご意向

第十一回国際女医会総会に於て

発表された演題の中から (1)

山崎倫子

Dr. A. D. Chenoweth アメリカ
○アメリカに於ける家族計画の公的活動

アメリカに於ては十年前までは公立機関を背景とする家族計画運動はほとんどなかったと云ってもよい程僅かななされていなかった。一九三七年ノース、カロライナ州が最初に州政府によって支持された家族計画事業を地方の衛生部に於いて始めたのである。その後相次いで隣接の南部の六つの州がそれにならった。しかし一九五九年十月までは、この七つの州のみが家族計画活動をその州の公衆衛生事業の一環としてやっていたに過ぎない。どの州にも母子衛生事業があり、家族計画事業がその中に含まれることは至って論理的であったにもかかわらず、この種の活動は農村地域の婦人を主なる対象として行われていただけである。アメ

を承わることは勿論であります。予定作成に早く着手でき、ひいてはいろいろの調整も出来、ご相談を申し上げる時間も許され、やがて諸姉のご希望にもなるべくそう事も可能かとの意向をもっております。どうぞお早くアンケートをお出して下さいませよう重ねてお願いいたします。以上

リカには多くの民間団体があつて、このひとつに家族計画連盟があつて、すでに公立機関の活動が始まる二十年も前から、受胎調節や、家族計画の指導、普及等を開拓していた。この家族計画連盟の避妊の指導と教育は主として都市の婦人に対して行なわれていた。家族計画に関する情報を流したり、指導をすることは多くの州で非合法とされており、一九六五年、アメリカ合衆国最高裁判所が避妊器具の使用が違法であるとした。コネクティカット法を憲法違反であると宣言するまで非常な弾圧を受けていた。一九六六年五月九日に最後に残ったマサチューセッツ州が避妊禁止法を廃止した。National Research Councilはこの問題について次のように云っている。即ち、現在では自分達の欲するだけの子供を持つことによつて家族数を制限する自由は人

間の基本的な権利であると。高収入のある、より高い教育を受けたほとんどのアメリカ人はそのようにしているが、ほとんどの貧しい、教育の低い人達は実際にはその権利を奪われている。どんな家族でも、貧困と無知なるが故に欲しない子供を、或は充分養育できない子供を持つべく運命づけられてはならない。平均して、アメリカは充分な収入を得ている成人と比較すると、同年配の貧しい成人の方が二倍以上の子供をもっている。そして調査によると、貧しい両親は彼等が望んでいた以上に子供を生んでいる。

家族計画に対する態度が変つてくるにつれて、アメリカでもその方面の活動が次第に増えてきた。アメリカに於ける医療のほとんどが医師の Private Practice によつて行なわれている。自分達の力で医療を受けられない人達が地域の又は公立機関のいろいろな形の公的医療を受ける訳である。地方の公衆衛生活動、特に母性衛生の事業をやっているところでは、避妊について指導を行なっているところもある。しかし地域差が多く一概には云えない。公立病院や診療所では次第に家族計画指導の面を拡張しつつある。又個人開業医によつて行なわれる医療保護適応者にも、避妊指導が与えられる。家族計画連盟は私的な基金、寄附を以て事業を行なっている。アメリカ連邦政府の立場としては、児童局、Office of Economic Opportunity、公衆衛生局等が現在

Community に於ける家族計画事業を後援している。多くの児童及び公衆衛生に関する機関、研究所等が研究と教育、又は再生産の過程についての生物学的、社会学的研究に多額の投資をしている。直接指導への援助は比較的少ない。アメリカ、インディアンに対しては、公衆衛生活動の一環として病院又は保健所で家族計画の指導が行なわれている。最も活潑にこの事業に関与しているのは衛生、教育及び福祉省の児童局である。一九六七年に立法された児童衛生法によつて、母子衛生の総予算は少なくとも六%が家族計画事業に使用されなければならない。家族計画が母子衛生事業に総合されることの根本的目的である母子の健康を増進することになり、且つ又個々の家庭の幸の基礎となるものである。

アメリカでは未だ家族計画の効果がはっきり分るところまでいっていない。しかしながら動態統計によると、家族計画の影響が出生率に於てみられる。一九六〇年には出生率は二三・七であったのが毎年少しずつ下つて、一九六七年には五年も高い婚姻率が続いた年であったにもかかわらず一七・九と最低の出生率を示した。白人に於ても黒人に於ても一九六〇年から一九六五年にかけて出生率が低下している。しかしながら、黒人に於ける方が白人より三分の一以上出生率は高く、下り方もそれほど速くはない。アメリカに於ても、断じて家族計画は必要であり、もっと多くがこのため

になされなければならない。但し次の二つの間違いは決し起こしてはならない。

- ① 医療と家族計画を切り離して行なつてはならない。
- ② 家族計画は貧乏人へのみ行なうものであつてはならない。

もし受胎調節が世界中のほとんどの国内緊急必要事とするならば、アメリカも決してその例外ではない。(つづく)

万博寄付申込者ご芳名

昭和四十四年五月三十一日現在
総計 二百六万八千五百円
(敬称略 順不同)

辻田雪江	辻 佐恵子
後藤サチ子	末藤 やす子
矢吹やえ	神川 竹他一名
西村 静	野村 淑子
池田和子	今井 百合子
小川英子	加賀谷 菊子
加藤 芳	金子 ミサヲ
菅野英子	菊地 タニ
小泉 みよ子	伊藤 玲子
渋谷美恵	田口 和子
榜田ウメ	博田 和子
福永光子	若松 マサ
吉本ミチ	前越 昌子
平野 ミス子	秋場 ミキ
柳瀬 好子	坂本 広猪
森川 みどり	倉 八千代
宇都宮 廉子	藤井 和子

奈倉早苗	渋谷朝子	鶴岡良子	和田博子	松永みつへ	服部君江	棚橋千賀子	印牧寿美子	中村実枝子	玉置静	井上種子	橋川ふさ子	加藤志げ子	藤原多賀子	鈴木雪路	井上英美代	前田いね子	飯田康子	西山静	工藤スエ	小倉陽子	服部紀代子	大野ヒデ子	内藤依子	田路医院	三輪輝子	加藤治美	木村光子	土倉恒	今井仍子	小山美佐尾	豊田花子	倉重美弥子	小林ヤエノ	佐々木セイ子
服部達子	千原うゑよ	加藤英子	稲熊千代	溝口すま子	藤中まち代	片桐治枝	村上泰子	館野茂子	田内静香	道野いち	川原昌子	加藤さかえ	中江良子	今村信子	山中妙子	大橋歌子	馬場寿美	鈴木淑子	刈谷愛	森川みどり	金倉広	及川富美子	中西清子	有原吉栄	高辻マサエ	平賀愛子	中川富士	松岡宏子	今井久子	久保田くら	則武久美子	小林加世子	斎藤アキ	
石塚昭	熊谷さち	小島千恵子	日向野ハツ子	今井ウメヨ	関根久美子	斎藤富世	飯田竹恵	多島智恵	柳野喜代	牧野喜代	高須登代子	田中雅子	鈴木篤代	野村きそ	牧野文子	坂堂美津子	杉浦よね	瀬尾あや	藤林静枝	杉江寿枝	飛岡弥生	松浦淑子	内堀なつ子	小林節子	富坂春代	堀井あさ子	伊東あさを	山本香子	小谷照子	水谷サク	佐野太伊子	河村明子	中島ふみ	
岩本由基枝	入江静枝	小林フヨ子	浜田登茂子	鈴木工子	黒宮瑞枝	上野寿子	桜井ふじ	佐藤菊子	渡部八千世	滝沢テル	関本英子	深見利子	河合米子	板倉玉子	片野昌子	新実静江	塩野谷能子	中西綾子	伊藤泰子	小柳津澄子	野村多賀子	大橋不二子	白木由起子	清水胤子	住田篤子	向井英子	竹内ひで子	山口銀子	野村淑子	古橋美智子	奥田霜子	西垣千代子	佐藤千代子	井上ふみ
星井石子	山崎一子	湖田敏子	山崎合子	杉林信子	小塚艶子	野場礼子	加茂裕子	山田笑子	手島澄子	塚田雪江	新実満佐子	亀井千代	飯田安江	大野弘	奥山しづ	小栗元	中田美奈子	山吹ウメ	早川セツ子	恵木民子	津田操	平松麗子	塩田千代子	河内十三子	大石静子	大熊良恵	笹沼修	本津美登利	生沼良子	平尾淑子	戸塚トシ	山川高子		
本位田和枝	新城歌子	南春枝	久山眞	岡山支部	大島澄子	小林千鶴子	加藤敏子	伊藤芳子	近藤和子	川島富久子	宇治谷喜代子	水谷たづ子	三輪美年子	鈴木喜代	鈴木スマ子	加藤知子	篠辺のぶ	植元あさを	北沢あさを	北浜博子	本倉喜美	大里哲子	佐藤千代子	中村マサ	田島喜美子	石原彩子	岡本和子	熊谷美津子	大野照子	長谷川美佐子	大井田シズ子	大平民子	水落十美恵	原たか子

ルーペンダンの頒布のお願い!

万博資金獲得のためご協力頂いているルーペンダンの新製品(エンジゼルザーの袋入り)が入荷いたしましたので、鹿児島、熊本、福岡、徳島、香川、山口、島根、広島、三重、東京の各支部の支部長先生宅に六月下旬お送りいたします。なお兵庫、奈良、岡山、福井、富山、新潟、長野、静岡、神奈川各県支部には七月下旬やはり支部長宅に会員一名につき二個位の割当てにて発送いたしますからよろしくご協力の程お願いいたします。

万博資金獲得のためご協力頂いているルーペンダンの新製品(エンジゼルザーの袋入り)が入荷いたしましたので、鹿児島、熊本、福岡、徳島、香川、山口、島根、広島、三重、東京の各支部の支部長先生宅に六月下旬お送りいたします。なお兵庫、奈良、岡山、福井、富山、新潟、長野、静岡、神奈川各県支部には七月下旬やはり支部長宅に会員一名につき二個位の割当てにて発送いたしますからよろしくご協力の程お願いいたします。

万博グラフ再募集の件

四十二年四月より開始致しました万博グラフは今年で一年になります。今年再募集の分は、四十四年七月より万博終了の四十五年九月迄計十五ヵ月間で、購読料は参千円です。購読ご希望の方は六月末日迄日本女医会本部宛ハ

ガキでお申し込み下さいますようお願い申し上げます。

○万博入場券ご希望の方は本部までお申込み下さい。
一枚 六百三十円(定価八百円)

会費十一年分前納者

- 宮崎 雅枝 高田 キミ子
- 島崎 君枝 山崎 淑
- 黒川 道江

当直医招聘

- 一、任地 茨城県下某病院
- 一、給与 委細面談
- 一、ベット数 精神科二三四床、結核科五九床

一、当病院収容患者は一般に慢性病につき何科を問わず年輩者六〇才以下にその他ご希望至急連絡を乞う。
(三四一—〇九六八)

昭和四十四年 六月十日 印刷
昭和四十四年 六月十五日 発行
編集人 森 千鶴
発行人 日本女医会
発行所 東京新宿区市ヶ谷河田町19
印刷所 東京都港区白金五丁目一
興栄美術印刷株式会社

題字 吉岡 弥生